

府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書（第2回）

日時	令和3年11月20日(土) 14:00~16:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房本 晃	(福)バオバブ福社会理事	島津 邦廣	校長
	菊地 栄治	早稲田大学教授	藤原 和子	教頭
	林 茂樹	摂南大学特任準教授	木村 悠	首席・人権教育主担
	安原 陽子	本校PTA会長	伊藤 あゆ	首席・2学年代表
			山口 裕子	人権教育主担
			中川 泰輔	人権教育主担
	教職員等			
亀田 恵美 田中 麻友 河合 美沙希 田ノ上 優光 眞杉 凌 須田 純次 米田 正樹 宮本 陸 斎藤 千景(埼玉大学准教授) 朝倉 隆司(東京学芸大学 特任教員)				
主なテーマ	今年度の重点項目の進捗について			
協議内容の概略	1. 今年度の取り組みより ①「地味会」開催までの経緯、当日のようす 通級(ライフスキル)の取り組み、「地味会」。SST の成果を発揮する場+仲間づくりをめざした。 ②ピースフィールドワーク 参加生徒の言葉 ・人権学習がしくて/課題研究の先輩の聞き取りをして/中学校の先生の勧めで/深く考えたくて 松原高校にきた。 ・人の話を聞いたり伝えたりすること、違う考えから学ぶことが楽しい。 ・大正に行って、本当の優しさは自分の思いを押し付けるのではなく、その人自身を見ることだと学んだ。 ・グループワークの発表で、車いすを使っている子が教壇に上がれなくて、みんなと並べずに発表する姿がある。その段差をなくすか何かしてほしい。 ・人権学習は先生から生徒へ、の形式。自分たちで一から作りたい。誰かに言われて直す、でなくて、自分たちで気づける。 2. 協議員の方々より、ご意見、提言			
提言内容・改善方策	・集団作りの場でダメージを受けているのが給食時の「一列で黙食」。対案として、SHR を遊びの時間にしている。あそびにも土台がいる。 ・授業で主体的になることは難しいが、本人がペースメーカーになっている。ペースには大きなものと小さなものがあるが、本人のペースで受け身から主体的になる。 ・「発達障がい」とは、自己認識か保護者が思っているか。保護者に対する説明やどう選ぶか、かなり足場を練っていかなければならない。 ・どういう風に人と向き合うのか、の中身が薄かったら、「蜜にならない」がいくらでも拡大していく。			